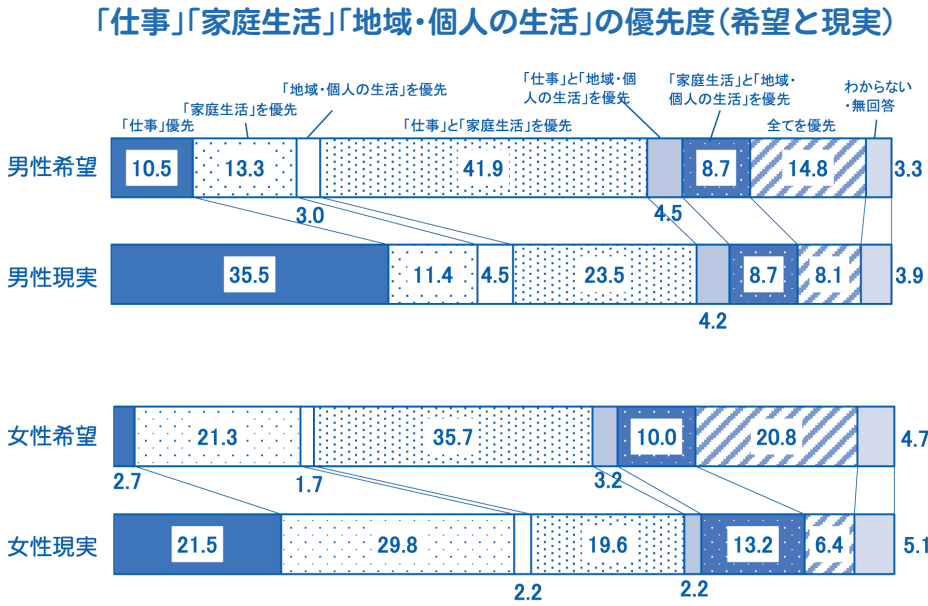


『仕事・家庭生活等の優先度』 希望と現実

希望としては男女共に「仕事と家庭生活をともに優先」が最も多い（男性41.9%、女性35.7%）ですが、現実の優先度では、男性は「仕事優先」（35.5%）、女性は「家庭を優先」（29.8%）がそれぞれ最も多い結果となっています。現実には「仕事と家庭生活等」の両立は難しい状況にあると思われます。



女性が職業を持つことについて

区分	子どもができたから職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	結婚するまでは、職業をもつ方がよい	女性は職業をもたない方がよい
全体	41.0	33.6	6.2	3.5	0.3
男性	43.4	34.6	5.1	3.3	0.6
女性	39.1	33.0	7.1	3.7	0.0

男女共に「子どもができたから職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が最も多く（男性43.4%、女性39.1%）、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」（男性34.6%、女性33.3%）となっています。特に60歳代男性の40%以上がそう答えています。また、過去からの調査結果の推移をみますと「子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい」という考え方が増加傾向にあります。

『女性が職業を持つこと』 に関する考え方について

「おびひろ男女共同参画プラン」

男女共同参画社会を推進するに当たって、男女共同参画社会基本法で市に計画を定めることを努力義務としています。

帯広市が平成22年に策定した第二次となるプランの目標とする社会は「男女の人権を尊重する社会」「政策・方針決定過程などへ共同参画できる社会」「仕事と家庭・地域生活が両立できる社会」です。

帯広市では、この市民意識調査結果を活用して、今後のプランの推進に活かしていきます。



岡庭義行氏プロフィール

1967年生まれ。帯広大谷短期大学副学長。専門は文化人類学。帯広市、音更町、中札内村等で男女共同参画推進計画の策定に携わる。現在、帯広市男女共同参画推進市民会議会長。

「おびひろ男女共同参画プラン」の推進に活用して、今後のプランの推進に活かしていきます。

〈市民意識調査結果について〉

帯広大谷短期大学副学長 岡庭義行 教授にお聞きしました。

今回の調査結果は、性別だけでなく年齢層による違いにも注目していく必要があると思います。例えば「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の項目について、この質問に「賛成・どちらかといえば賛成」と最も多く回答した世代は70歳以上(45.1%)でしたが、「賛成」だけで最も多い世代は20歳代(12.5%)でした。男女別で見ると、女性の20歳代は「賛成」・「どちらかといえば賛成」の割合が他の世代に比べて最も低い一方で、実は「賛成」だけを見ると高い割合(12.5%)を示しています。男性については、「賛成」が最も多い世代が60歳代(16.5%)、次いで20歳代(12.5%)となっています。「賛成」と「反対」の割合の差についても注目すべきだと思います。男女別にみると男性は30歳代、女性は20歳代で最も差が出ています。60歳代に関しては男女差が顕著に出ています。

このような傾向や二極化については、その背景や理由を今後しっかりと考察していく必要があると思います。そのことが、各分野での男女の地位の平等感の改善にもきっと役立つと思っています。